# 都農町の未来を考える

宮崎大学地域資源創成学部　地域探索実習都農2班

## 中心市街地

中心市街地の地域資源調査にて、午前中のレクリエーションでは「赤城家」やマーケット跡地を含む空き地・空き家の活用や、旧10号線の道路拡張計画についてのお話があった。私たちの班は、主に旧10号線の道路拡張計画に焦点を当てつつ散策を行ったのだが、行政の掲げる計画と実際の商店街の現状とが乖離している可能性が出てきた。そのため、旧10号線沿いの商店街活性のための新たな計画を提案したい。

### 【調査日時・場所】

日時：2022年12月16日(金)　場所：赤城邸―上町橋

### 【ヒアリング調査】



≪商店街≫

商店街でのヒアリング調査では、そこで生活を営み、商売をしていらっしゃる方々のお話を伺った。その中で出た意見としては以下のとおりである。

・近くに大型スーパーが出来たことによりもともと減っていた客数が、新型コロナウィルスによりさらに減少した。
・若い世代が都農町ではなく、町外に出ていくことが増えたため、結婚式や成人式といったお祝い事に出す商品が売れなくなってしまった。
・現状として、後継者を構えている店は少なく、中には自分の代で店をたたむ予定の方もいらっしゃる。
・以前、都農神社で行われたイベントは集客効果が大きかった。単発ではなく継続的に開催してほしい。



≪都農町民図書館≫

また、都農町民図書館を訪れたときに得られたことは以下の通りである

・子供からご年配の方まで利用されている。
・読まれなくなった本を無料で配布する古本市を開催。

### 【道路拡張計画についての調査】



写真1　旧10号線歩道(令和3年12月16日、班員撮影)

写真1は旧10号線の歩道を調査した時のものである。この歩道の問題点として

・歩道と車道の明確な境目がない
・歩行者と走行中の車の距離が近い

という問題があった。



写真2　上町橋欄干(令和3年12月16日、班員撮影)

また、写真2は上町橋の欄干を調査したときのものである。高さが班員 (約160cm) の腰下程度しかなく、少し身を乗り出しただけでバランスを崩し、下まで落ちていくだろうと推測できる。加えて、道路の片側にしかないため、イベント等を開催したときには混雑する可能性が考えられ、事故の原因になりかねない。

旧10号線は学生の通学路にもなっているため、安全の確保は火急に取り組むべき課題である。

しかしながら……




図1　都農バス停付近　(令和3年12月16日、班員撮影の写真及び旧10号線道路拡張計画、スマートフォンによる計測をもとに再現)

図1は、旧10号線の道路拡張計画を実際に行った際、歩道を作るためにはどれほどの場所を確保する必要があるか、ということを大まかに調査したものである。都農町バス停付近で調査を行い、車道外側線の中心から、スマートフォンの計測機能を用いて歩道として確保する3mを測ったところ、赤く色付けた個所を削らなければいけないということが分かった。道路を拡張するためには、建物を一度取り壊す必要があるため、住民への立退料や建物の建築費といった費用面、立ち退きによる住民の心理的負担を考えると、拡張計画は果たして妥当だろうか、という疑問が残る。

### 【提案】

以上のことから、私たちの班は、旧10号線を利用する歩行者の安全を確保しつつ、道路沿いの商店街を活性化するためには、「旧10号線の歩行者天国化」を行うのが良いのではないかと考えた。



考えられる車両禁止区域(Google Mapより引用)

≪具体策≫

・2週間に一度、マルシェや蚤の市といったイベントを行う。
→旧10号線に点在する空き家・空き地を貸店舗化し、有効活用。

・イベントの開催に伴い旧10号線において商店が並ぶ区間から都農神社付近までを車両禁止区域に。

≪マルシェ・蚤の市について≫



イメージ図　GW最終日の中央商店街の三条マルシェに2万0,200人 (kenoh.com)より引用

・都農ワイナリーの露店や住民の皆さんによる出店、他の地域からキッチンカーを呼ぶ。
・その場で飲食することが出来、かつコミュニケーションの場を提供する。

## 寺迫地区

寺迫地区の調査では、長福寺の副住職さんと自治会長さんから寺迫地区の歴史や風習、現在の状況といったお話を伺った後、地元住民の方々に聞き込みを行った。自治会加入率に関することや交通面に関することなど幾つかの問題が浮上したが、その中でも今回は、都農町が推進している取り組みであり、2025年までには住民によるデジタルを用いた主体的な活動として定着させることを目的としている「デジタル・フレンドリー」についての問題を取り上げる。

### 【調査日時・場所】

日時：2022年12月17日(土)　場所：寺迫地区

### 【講話及び散策】



≪長福寺≫

長福寺では、地域との関わり、寺院の抱える問題に関するお話を伺った。

寺院の抱える問題としては、寺院コミュニティの変動が挙げられ、信仰離れ、若者の寺離れ、檀家の高齢化、檀家の後継者不足といった問題があるとのことだった。

新たに新たに永代供養、終活相談を行い始めているが、一時的な回避策でしかないため、持続可能な取り組みを行う必要があるようだ。



≪寺迫公民館≫

寺迫公民館では、主に寺迫の自治についてお話を伺った。

まず、自治会に加入している家の数は、現在56戸で減少傾向にあるようだ。また、移住者は来るが自治会に加入する家は少ないようである。

次に伝統文化である「御日待」については、「御日待」そのものが時代の流れにそぐわず、また自治会員の減少もあり、次回の開催で最後にしようと考えていると話された。



≪散策≫

寺迫地区を散策したところ、ソバの実を育てている畑や、トマトやなどを栽培しているビニールハウスが広がっていた。

しかし、写真3のように、ビニールハウスの放棄地が点在しているということが分かった。



写真3　寺迫地区(令和3年12月17日、班員撮影)

### 【デジタル・フレンドリーについての調査】

「デジタル・フレンドリー」とは、デジタルに弱い高齢者を中心に「デジタルと友達になる」ことを目的にしたプロジェクトである。65歳以上のみの高齢者世帯や子育て世帯の2,000世帯にタブレット端末を無償で貸し出し、行政と町民の双方向型ポータルサイトを開設したり、「デジタル」に明るくない方々のために教室を開いたりしている。

では、実際に住民の方々は「デジタルフレンドリー」についてどう思っているのか、聞き込みを行った。



住民Aさん

始めは興味本位で使用していたが、現在はあまり利用していない。近所の方とのお話にも上がらなくなった。教室もあったがなかなか参加する気になれなかった。地区のデジタルに詳しい人を交えてみんなで話す機会などがあれば！

ポケットマルシェなどを用いて栽培した作物を売ったり、行政が出している情報を得たりと積極的にデジタルを活用している。



住民Bさん

Bさんのように、デジタルを活用している家もあれば、Aさんのように利用できていないという家もあった。また、お話を聞く限りでは、Aさんと同じような状況になっている家の方が多いようだ。

今回の調査で、地域内でデジタルに対するギャップが生まれてしまっていることが分かった。このギャップを埋めなければ、「デジタルフレンドリー」の目標は達成できないのではないだろうか。

### 【提案】

以上のことから、私たちの班では、「デジタル・フレンドリー」をより浸透させるための案「デジタルの茶室」を提案する。

「デジタルの茶室」で行うことは以下の二つである。

≪①デジタルの相談≫

いつ　：2か月に1回程度
どこで：公民館
誰が　：つの未来財団の方や学生に協力してもらう
何を　：「ITヘルプデスク」を参考に気軽に質問できる場所の提供

≪②住民による学習会≫

いつ　：住民の意向に合わせて
どこで：公民館
誰が　：地区のデジタルに詳しい方、デジタルについて学びたい方
何を　：ホームページ作成やポケットマルシェ、オンラインショップの活用方法について教えてもらう

「茶室」と名付けた理由としては、地域コミュニティが低下しつつある現在の状況を変えるために、お茶会のようなコミュニケーションの場を提供できればという思いからである。

また、デジタルを学ぶ上で、よりアットホームな雰囲気で楽しく学べるような環境になれば、デジタルに対する抵抗も薄れ、より浸透していくのではないだろうかと考えたためである。

### 【訪問先】

・都農町民図書館　・長福寺
・寺迫公民館

### 【講師の方々】

・都農町 町長 河野 様　・都農町 建設課長 日高 様　係長 海野 様・都農町 まちづくり課長 河野 様
・つの未来まちづくり推進機構 山内 様　原島 様

### 【ヒアリング先】

・旧10号線沿いの商店街の方々
・住民A(寺迫地区)　・住民B(寺迫地区)